

桑名文化協

平成28年3月15日
第 39 号
桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361
http://bunkyo-kuwana.jp

初めての多度公民館で『鉄道員』上演

ぼっぼや

演劇部門 加藤 武夫

(劇団すがお)



私たち演劇部門は、昨年の十月、今年度の市民芸術文化祭を多度公民館で行いました。会

場の条件は決してよくはないのですが、館長のご協力で極めて順調に準備することが出来ました。

場所柄、地元多度町で活躍中の二つの大正琴グループ「スタックアート」と「プレアデス」の皆さんに賛助出演いただきました。

第I部を大正琴のコンサート。第II部で劇団すがおの演劇公演浅田次郎・原作「鉄道員(ぼっぼや)」の上演です。

会場は満席の四〇〇名。ぎっしりと詰まりました。高倉健主演の

映画と同名の作品の舞台化で、大好評でした。映画で見たという人も生の舞台で感動を新たにさせていただきました。

この作品は一昨年にコミュニケーションプラザで初演しており、二度目を観に来たという人も何人かあり、それでも涙なしでは観られなかつたというお客様も。

大正琴のお客様も演劇のお客様も満足して帰宅の途に就いたと思われ

ます。この多度公民館での公演



は、市民芸術文化祭としても初めての経験でしたが、これからも機会があれば是非上演したいと思えました。なお、この作品はラッキータウンテレビで録画放映されました。

文化祭を終えて 生け花は楽しい！

華道部門 片山 和子

(小原流)

去る十一月三・四日六華苑の会議室、番蔵棟にて、秋の草花満載の華展が開催されました。六流派の方々の共演です。庭先や野山でよく見かける花が、凛としている姿に「器に生けると、こんなに美しくなるのネ」等と楽しそうな会話が。そして「畑の隅で、曲がったり傾いたり的小菊が、水盆の上で踊っているように」立派な生け花に変身した姿に、感嘆の声です。多くの方々が、多様な花の世界を堪能された様でした。

又月釜茶会と同時に、小さな華展も開かれます。私たち小原流は、一年に一度、日頃から生けてみたいと思っていた花を、思い切り生けてみる機会にしています。お花は、そのままでも十分美しい物ですが、生け花は、その美しく可愛い色を組み合わせるにより、

美しさをより引出す事が出来ます。そして、野山で感動した風景を器の中に再現し、



見て頂く方にも、感動が伝わり、共有する事が出来ればとの思いで、生けています。華展一週間前に、いろんな思いを持ち寄り、一の間は、お迎への花に、二の間は、楽しい彩りの花に、三の間は、落ちついた小原流の花に、等とイメージを膨らませ、楽しい時間が過ぎて行きます。

さて生け込み当日、不思議な事にお花を手にする時、皆さん元氣になります。そして手分けしてイメージに生けて行きますが、この時間がとっても楽しいのです。生け終えると、心地よい疲れを感じますが、花々が生き生きとしている姿に皆笑顔になり、心満たされます。見て下さる方にも、この楽しい思いを感じて頂けたらと思っています。そして若い方達にも『生け花楽し！』伝統文化を伝えていきたいと思えます。


自作自演の発表会

趣味教養部門 岡本早百合
(桑栄編物教室)

去る十月二十四日、桑名市民会館小ホールにて「くわコレ15」を開催しました。年に一度各教室で編み物を習っている生徒さん達が集まり、自分で作った作品を舞台でお披露目させていただいています。

今回まず最初に桑名市文化協会副会長、丹羽宗俊様のご挨拶をいただいた後、作成者が一生懸命仕上げた作品を五十五点舞台の上でモデルとなつて身に付けて皆さんにご覧いただきました。前日までかかって仕上げた作品もあつたようです。作品をアピールする為にナレーションを入れたり、モデルさんがポーズをとったりして手作りの舞台発表となりました。

くわなコレクション'15



ガールズコレクションのコーナーでは、小さな子供さんから高学年の子供さんまで、音楽に合わせて舞台を歩いてくれました。前回まではお母さんが作った作品を身に付けていた子供さんが、今回は自分で作った作品を身に付けたり、お父さんの為に作った作品を発表したりと成長を感じる事も出来ました。次回開催される時には、皆さんもつとつとステキな作品を発表していただけると思っています。

そして十月二十五日には展示室にて作品を展示し、近くで編地などを見ていただきました。毎年足を運んでくださる方もいらつしやいますし、多くの方々に支えられながら「くわコレ」を催す事ができています。これから先もできる限り続けていければと思つています。

市民芸術文化祭を終えて

音楽部門 山崎 卓治
(トーンポップス)

去る十一月二十二日(日)、桑名市民会館小ホールにて「音楽のフルコース」を開催いたしました。今回は天候にも恵まれ、例年になく大勢の市民の方々にお越しいただくことが出来ました。

前年より多い十一組の団体・個人が出演し、クラシックからポピュラー、日本の楽曲と、まさに音楽のフルコースとなりました。特に今回は、初出演の「マリンバ」や桑名市文化功労者として表彰されました「桑名少年少女合唱団」



の出演もあり、観客の皆様も楽しめたことでしょう。マンドリンからギター、オカリナ、コカリナ、ハーモニカ、ピアノ、管楽器、打楽器と様々なスタイルで表現をする演出者の一生懸命な演奏や、その音楽の魅力が皆様に伝わったことと思います。私も一緒に参加してみたい!と思つていただけるようなコンサートを、これからも作って行きたいと思つています。

新春六華苑祭美術展に想いをよせて

美術部門 浅井 清貴
(留美寝参寿久波家)

二〇一六年の正月はぼかぼか陽気、その十六・十七の両日に新春恒例六華苑祭が今年も桑名文協の会員有志が歴史ある空間に集い饗宴し、楽しく華やかな彩を添えた二日間でありました。正しく和洋折中のたたずまいに呼応する斬新な演出や試みをさらに期待してきます。

番蔵棟では、絵画・彫刻・写真・陶芸・工芸（彫型画・染色・孔版画・押し花アート）の力作が並び訪れる人の目を楽しませましたが、秋の市民文化祭美術部門にない新春を寿ぐテーマが少なく残念に思いました。中でも干支彫刻や獅子と狛犬、等のモチーフ作品が目目されていきました。今後新春の表現にも期待してやみません。

実際の所、メディアライヴ同様、全ての会員の作品を並べることが可能なスペースがなく、美術部門の全貌を見て頂けないのが残念



です。限られた展示で作品云々を評価できるものではありません。写真は隔年で二団体が交互に出品、絵画に至っては秋の市民芸術文化祭で団体会員は四年に一度という出品に限られ、秋に出演できなかった人が参加する展示とも言えます。

出品者が切磋琢磨できるような展示にして行きたいものです。美術家が異なる表現のイリュージョンを組み立て、新鮮な感性で創造され感情移入が伝わってくる作品が素晴らしい。

芸術は、現実を只コピーするのではなく、作品からじみ出るオーラがどのくらい在るかの問題です。「こんな美しい世界があるなら行ってみたい」という衝動に駆られる。「こんな器で料理お酒を味わえる幸運」とか、「空間に華を添えるオブジェとして、シンボライズしたい」というインパクトのある作品の創造を目指すことこそが目的であり、芸術力なのです。

「美は頂上のない山である」と言った人がいます。いや頂上があるが登り詰めたとき本当の頂上はまだ先だったと言うべきかも知れません。

ません。いずれにしても妥協の許されない世界であります。近年美術を取り巻く状況も、ハイブリッドアート・メディアアート・CG映像アニメと拡大しています。市民展にも言えることですが、そのような若い世代の参加できる環境も望まれてなりません。コンドルの頃の桑名文化にしようではありませんか。

新春六華苑祭

芸能I部門 宮永 洋子
(宮永洋子箏曲 三絃教室)

新春を寿ぐ「新春六華苑祭」が一月十六・十七日の二日間、六華苑にて開催されました。いつも一番気になるお天気は、二日間とも小春日和の穏やかな日差しに包まれました。来ていただくお客様、出演者にとりまして何よりの天からの贈り物でした。庭園の蕾の紅梅を愛で、野鳥のさえずりを聞き、また日本間では新しくなった畳のい草の香りを感じながら、十六日は尺八の「春の海」に始まり、箏曲・オカリナ・大正琴・能楽とまさしく花鳥風月の世界です。すべてに洋風化の進む中、邦楽を愛する者としては誠にありがたい場所、機会であります。

平成十七年の第一回は、箏曲・尺八・舞踊のみでしたが、年々多



くのグループの参加により、日本間だけではなく、洋館・庭園と益々盛大になってまいりました。それだけに、控室の混雑、音のぶつかり等大変な面もありますが、どのグループの皆さんも楽しく演じておられました。特に子供さんの出演された「こども仕舞」は部屋に入りきれない程のお客様でした。未来に希望を持たせてくれます。

「継続は力なり」と申しますが、今子供たちの環境は、芸事を継続するのがむづかしくなって来ています。今日出演された子供さんたちには、頑張って桑名の文化を担っていただきたいと思います。

私共の生徒もそうですが、六華苑の演奏会から一年が始まります。琴の音色の一番似合う場所と機会に恵まれ感謝しております。この新春六華苑祭の為にご尽力いただきます文化協会の役員の皆様、お世話になりました六華苑の職員の皆様にご心よりお礼申し上げます。また、来年も参加できれば幸いです。

新春懇親会

芸能Ⅱ部門 森

晴岳

(桑名吟道会)



今年も恒例の桑名市文化協会、新春懇親会が一月十六日に開催されました。初めに昨年九月に御逝去されました、桑名市文化協会会長、故今村和子様にご哀悼の意を表し黙祷を捧げました。つづいて森会長職務代理者の挨拶では、今村会長の偉業についてお話をされ、今後とも会員の皆様と共にその遺志を受け継ぎ、桑名市文化協会の更なる発展に寄与する決意を述べられました。

このたび、平成二十七年桑名市文化功労者表彰に、文化協会会

員の小森節子さんが受賞されました。表彰状を横に、よろこびのご挨拶をいただきました。

愈々、丹羽副会長、乾杯の発声で懇親会に移り、歓談をはじめ、来賓皆様のご挨拶を賜りました。しばらく歓談の続くなか、会員の皆さんで日本舞踊が華やかに演じられ、盛会のうちに閉会の時を迎えました。

来年も是非、心温まる集いに会員多数のご参加をお願いいたします。



桑名市文化功労 団体表彰を受けて

音楽部門 小森 節子

(桑名少年少女合唱団代表)

この度平成二十七年桑名市文化功労者賞を頂きありがとうございます。平成四年四月からこの春で二十五年目を迎え延べ七百人ほど在籍しました。その中には音楽大に行った団員も数人おります。

当初の設立にあたっては、練習場所の確保が課題で社会教育課にご相談に伺いました。丁度市では国民文化祭に向けての準備が始まるうとしていた矢先で幸運にも合唱団の設立に大変尽力して頂き、公民館が使用できるようになりました。その後も水谷元 元桑名市長様はじめ、多方面の多くの方々にご支援ご協力を頂き毎年定期演奏会を開催してこられました。今年も三月二十日に開催予定です。

歌といえば最近の子供達にはテレビドラマの主題歌かアニメソングしか歌われないのは寂しい限りです。楽器を演奏するのは異なり身一つですむ歌は大変身近で、しかも心を和ませたり励ましたりしてくれる力は絶大なものです。この間、子供達とボランティア活動で老人施設を訪問演奏しておりますが、そこでの歌の力の素晴らしさを痛感しております。動かな



かった手が動いたり、出せなかった声が出たりと反応されるのです。子供達も又そういう方の姿をみて感動し、交流を通して

思いやりやいたわりの気持ちを育ませてくれます。二〇二〇年のオリンピックを控えスポーツ系はクラブに専門コーチが配属される様になりました。音楽も音楽の授業数は少なくなりましたがせめて専門家を増員して学校教育や音楽クラブの質を充実して欲しいと思います。

当合唱団も毎年演奏会を開催できますのも父母の方々が熱心に活動を助けて下さっているお陰でもあります。指導者として大変助かっておりますが、若いだけに財政負担面であり無理強い出来ず心苦しい限りです。市の財政も厳しいでしょうが、未来を背おう子供達に一層の公的援助をお願い致します。最後に桑名少年少女合唱団への文化功労団体賞を励みとして、今後も団員関係者一同新たな意気込みでさらに一段の努力を決意する次第です。どうもありがとうございました。

平成二十八年度月釜・華道展日程表

開催時間：月釜 午前10時～午後3時30分

華道展 土曜日 午後1時～午後5時 日曜日 午前10時～午後4時

開催場所：六華苑離れ屋（茶会）番蔵棟（華道展）

呈茶券：前売券800円（入苑料310円込み）茶道各流派師範宅で販売）

当日券600円（入苑料310円別）

* 4月16日（土）は「県民の日」を記念して六華苑の入苑は無料です。

* お問い合わせは桑名市文化協会事務局（総務部文化課内）TEL24-11361）まで

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成28年 4月16日（土）	遠州流（県民の日）	MOA山月光輪花
4月17日（日）		MOA山月光輪花
5月21日（土）		小原流
5月22日（日）	表千家流	小原流
6月18日（土）		草月流
6月19日（日）	裏千家	草月流
9月17日（土）		華道家元池坊
9月18日（日）	煎茶松風流	華道家元池坊
10月16日（日）	県民茶会	休会
平成29年 1月15日（日）	遠州流	休会
2月18日（土）		竹真流
2月19日（日）	裏千家	竹真流
3月18日（土）		石田流
3月19日（日）	煎茶松風流	石田流

桑名市文化協会育成補助金 募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して補助金を交付します。つきましては平成28年度の育成補助金募集案内をいたします。

◎補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、平成28年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で平成26年、27年に補助を受けていない会員。

◎補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

◎応募の方法

文化協会事務局（総務部 文化課内）で申請書類を受け取り、同事務局へ申請する。

◎応募受付期間

平成28年3月2日（水）～

4月5日（火）

（平成28年4月1日～平成29年3月31日までの実施事業に限る）

◎申請の制限

平成26年度・27年度に補助金助成を受けた団体・会員は交付申請できない。

◎お問い合わせ

桑名市文化協会事務局
（桑名市総務部 文化課内）
TEL 0594-24-11361



文協文芸

現代詩

現代詩やまぶき

友よ

安田 治三

今夜も車は帰路を走っている
ヘッドライトは見慣れた景色を投
げ棄てる

闘いは終わり映り去る物々
それは冷冷な刃物と鉛色の金属

心と言葉にさいなまれた
一日が終わったのだ

安寧は何処にある
昼間の作り笑顔は欺瞞の罫か
不信の道化師が
心のひだに毒を刺す

困難と苛酷を重ねてゆくうちに
アイゼンは壊れ空と山とに
二元化した暗闇を
滑落してゆく恐怖の瞬間

群青に眠る氷雪は地獄の壁
絶叫は深い谷底へ消えてゆく
最期の叫びを誰が知る

満天に散らばる数多の星辰
いつかは永遠の安寧に還るのか

十二月九日友は去った
あの頃は

山が、川が、草や、木々が
夢が、希望が
果てなく芽ばえ
育ってゆくように春が始まり
泣いたり笑ったりの
想い出がいつの間にか
ページを色彩ついていた

あの頃は
朝に昼に夜に
身をまかせあるがまま
今日に、明日に、思えば
華やぐ青春の日々を續いでいった

懐かしい日々の数々
もうもどれない

何でも先をゆく君だった
永遠に、追いつけない君に
なってしまった

何処か届かぬ遠い星へ
逝ってしまった

友よそこは安寧の地か

熱帯夜

堀川 孝子

五郎さんの出征の日
七歳の兄ははしゃぎ回って旗を
振ったが
生まれたばかりの私は
やわやわした拳を開くことも出来ず
異様な空気をほんやりと感じてい
たような気がする

五郎さんは父の一番下の弟
赤紙の届いた暑い夜

母の大きなお腹を指して
生まれて来る私を待ちかねていた
と聞いた

昭和三十四年花ふぶきの中を行進
する結婚パレード
馬車に乗られたお二人の姿が大き
く映し出される
正座して見入っている祖母の胸に
昨日の事のように去来していたのは
返されてきた石ころひとつ
最後に見た緊張した笑顔

五郎さんのイニシャルも残る机に
図面からはみ出したカッターの
新しいキズをつけたのは私

終戦から七十年
祖母も父も逝き
兄までもいなくなつて
仏間で手の届かなくなった五郎さんと
目が合った

腹を見せて転がっていた蝉が
いきなり高い声を上げて足もとか
ら飛び立って行く
日照りの続いた今年の夏にも
土から這い出して来るものたちが
いる

ざわざわと寝つかれない
異様な空気が漂う熱帯夜が続く
遺影から抜け出した五郎さんが
軍服を脱ぎたがっている

祈り

岡本 妙子

四日かけて生前葬を済ませた人に

あれから
何か変わりましたかと
問いかけると
少しはにかみながら

「何も変わってはいない
まして悟ことなど何もなかった」と
少し考え込んだ後
「迷ってこそ人生 悩んでこそ人
生 悟りなんてとんでもない」
大きな声でこれが生きていく証と
胸を張って言った

心をなでおろすように
使い慣れたギターを撫で回し
ポロンと弦を爪弾いた

居場所を探し
迷いうろつきながら
いつも悩んで無駄足踏んで
とうとう
この齢まで来てしまった

今年こそといきこんで
娘と向った氏神様の前で
ひたすら手を合せて
何を祈ったのと聞かれても
毎年のこと
ありがと、ありがとこのくり返し

どんだだきの火に
手をかざし
冷えた体に温もりを戴いて
それだけで
じゅうぶんありがとこの
この両手の今年の祈り

●会員 近詠

新築へ笑顔を見せぬ鬼瓦

カーナビがバラした恋の隠れ宿

梶 泰栄

損得が絡むと本音さらけ出す

理想論骨を抜かれた多数決

伊藤 正則

美しい女性に会えた今日は吉

こっそりと心と命見てみたい

清水 健吾

休耕田改革の秋待ちわびる

行政に助成不足の介護の苦

水谷 真

有難や暇と金には縁がなく

飽食を笑って見てるホームレス

森 繁生

宅配のチラシながめて腹がへり

体力を誇った力こぶも消え

真田 五市

年金で上手に歩く老いの道

いいことは全て試して生きている

木原 広志

去年今年

木原広志

税理士事務所を経営し家族もある柳人が昨年の秋「ひとりになりたい」と老人施設へ入った。

この話を周りの奥様方の耳へ入れたところ、口をそろえて「うちの旦那もいいところがあればすぐにでも出したい」とのたもって唾然とした。

彼の入った老人施設は高級で大半が元医師、弁護士、会計士などで七十人収容、半分はご婦人だが中には能のシテ方をはじめさまざまな遊芸の師匠が多くいわゆる才媛ぞろい。顔つきもちがうが会話もちがう。

施設には書道をはじめ能楽など二十ほどのサークルがある。その中へ入所した彼の尽力により「川柳入門」が加わり、将来の染筆を視野に水墨画を添えたところ、二十名の方に参加していただけた。

講座では俳句と川柳の違いを詳述してすぐ実作へ入った。

皆さん熱心で飲み込みも早く教える方も力が入った。上達を早めるため、日本の三大柳誌のきやり（東京）の購読をすすめたところ皆さんが同意され、早速見本誌を求めた。

去年私を感動させた快挙になった。

今年へ入ってすぐの新聞で、常滑市に住む中国人が民家を借りて陶芸店を開いた記事に接した。

最近日本を訪ねる観光客は多い。中でも中国からの人が多く、その爆買もニュースになっっている。

記事によれば常滑の店にも中国人が沢山来て爆買いしていくそうだ。

この記事から私は中国の観光客へ川柳を近付けることを思いついた。中国人は日本の漢字が読めるから川柳に興味をもつ人がいるのではないかと思ったのだ。

幸い常滑には川柳会がある。早速親交のある川柳会へ手紙を出した。

くだんの中国人の店へ出向き、ダメモトで打診してほしいと託した。

結果はまだ届いていないがどんな反応が出るか楽しみにしている。

返事によっては絵と句を染筆した拙作の色紙をもって私自身常滑へ足を運んでみようと思う。

広い中国へ川柳が上陸した場合を考えると私は眠れない。

表題とは離れるがひとこと触れたい。瀬戸内寂聴さんがある対談の中で「年齢に関係なく常に新しいことに挑戦してほしい」と訴えた。

私はこの言葉に背中を押され、昨年無謀にも能楽グループへ入った。かねがね、能を語れる老人になりたいと思っていたからだ。

月一回、日本間を開放した西区の料亭で開かれる。

前半、宝生流のシテ方が舞い、大学の准教授が解説を加える。会のあと講師を交えて会食する趣向。

若い頃、能に誘われたが歯牙にもかけなかった。しかし老境へ入り江戸川柳に興味をもったところ能、狂言、文楽などからの文句取りの作品に出あい、心が動いた。

意外にもフランス人が能、狂言を学んでいると聞く。

余談だが最近、小学二年生から英語を学ばせることが話題になったがこれに対し、ある大学教授が「同時に日本の伝統についても教えるべきだ」と唱えた。

教授によれば外国では日本の伝統芸能についての質問が多いから最小限答えられる用意をしておくべきだと述べている。

大半の日本人がこの質問に絶句するという。

私も江戸川柳へ手を染めていろんなことを学んだ。

昔の老人は博学な人が多かったが、今の老人は数段落ちる。耳を傾ける指摘だと思う。

短歌

金雀枝短歌社

● 会員 近詠

石路の花は日差しをこうむりて黄の鮮やかに花明りする

石川 房子

谷間に野猪の被害のありし畑柿を植え十余年なり

石川 富士子

秋草は刃にからみつきエンジンを止めてほぐせど又絡みつく

伊藤 さくえ

さわやかな風に吹かれて歩こうか二駅ほどを整体院まで

伊藤 紗代

紙ひこうきに夢をたくして飛んでゆけドラマの主題歌に共感しており

伊藤 美咲子

乗客はわれただひとり山裾をゆくバス白き月がつきくる

岩花 キミ代

帰宅すれば和服に着替える父なりき吾を膝に乗せ火鉢で本読む

上田 順子

たひらかに満月うるほふころあひを青まつむしの葉ごもりの声

上原 巳喜子

ひっそりと紅葉の木下に石路の花一群黄色に染めいる

海老原 秀世

休耕田コスモスの波風おこす子供の声しなやかに響く

大平 千歳

吹く風に幟はためくあさいちの支度の人らいそいそとして

岡本 節子

親子共演ピアノと朗読の世界とはどこからみてもしあはせの縮図

加藤 よしみ

除草剤撒きて枯れたる野つ原に生さいきと咲く朱の曼珠沙華

川村 久美子

十六夜の月より来しと六華苑に異国の女人琵琶を弾きます

黒田 美代子

秋晴れの続きある間にも思へども心のままに体動かず

窪田 靖子

宿酔の花と散りしやスイフヨウ恥じて根方にちんまりと在す

後藤 明美

赤とんぼもう秋だよと告げて飛ぶ日ざしの強く照りつくる朝

近藤 光子

「空へ消え戻らぬ人魚を海は待つ」夭折詩人のささめき聞こゆ

斎田 眞希

ハロウインのカボチャ電車を撮る吾をNHKのニュースは流す

佐竹 貴代子

孫生えの木に実りたる柿の枝の字にていねいに切る

四方 千枝子

老体を柵にあづけて満月の出でくるを待つ久のできごと

三田 香代子

かつて住みし団地の3K伸びし樹に部屋翳りを森閑として

高橋 典子

空家の塀の破れに下がるからすうりたつた一つに立ち止まりたり

高橋 フクミ

かざぐるま貫ひて来たる幼子の声あげ座敷を走り回りぬ

田中 流石

まつすぐに皇帝グリア畠のなか野菜も豊かに秋の陽を浴ぶ

立松 鈴子

虫の音も冴えて上れりこの夜の一会にをがむスパームーン

千種 てい子

名月に話しかけある一人居にひときは大き鉄塔の月

月井 和恵

急行は早やも往にけり鈍行を待ちあるホームに木犀の香り

内藤 みち子

わが読書端から忘れてゆくけれど勤めて時を作りいる日々

中村 里子

ハロウインの電車に乗ろうと思いつつ朝な夕なに眺めて終る

南部 信子

叔母からのネットレスして見舞いたり話題の途切れた時に備えて

西塚 郁代

慶長の町づくり前の町屋川いづくなりしやぶらぶら歩く

西羽 加代子

大聖寺詣出て足向く犬山城坂は茂りて威厳打ちくる

丹羽 孝之

五本指の靴下を履きある療法士腕突き上げ足鳴らせといふ

服部 ふさ子

み仏を無心に彫しか仏師の手厨子にいませる阿弥陀三尊

前田 誠子

子供の様に夕飯待ちたり春慶の箸にお椀に茶碗の水玉

松岡 綾子

秋の日差し意外に強き校庭に防災訓練の開始を待てり

水谷 郁子

かそかなる秋の気配をたづさへて母のたましひ来てある夕餉

水谷 貴美子

炎天の桑名の河口の昼下がりが舳ひ船あまた波にたゆたふ

水野 千枝子

実りたる小豆の莢の朝露の乾かぬうちと挽ぐ手をせかす

三林 牧子



一楓・山城顕彰短歌

■小・中学生作品

そろばんのパチパチする音なつかしいもうやめたけど動く指先

小六 佐野 将太

五月雨があがりまぶしい法隆寺百濟観音ほほえみ返す

小六 岩本 紀乃

森の中耳をすませば木々たちが風にふかれてささやいている

小六 中村英里香

夏が来た出番だ出番だせん風機つかれ出た汗ふき飛ばすんだ

小六 小島 璃子

弟の泣く姿みてだきあげるきみの笑顔は私の宝

小六 加藤 七海

ぐんぐんと高く伸びてくひまわりは夜になったら花火になるね

小六 藤本 彩香

柔道でここ一番にたいおとし勝った自分に笑顔がもどる

小六 青山健太郎

難問を考え解いたこのときの達成感がたまらなく好き

小六 中村 水咲

ランドセルいっしょに学校いくけれどたまにはきみにも歩いてほしい

小六 服部 七海

たのしみは本を何度もよみかえし作者の気持ち気がついた時

小六 仁井田美空

どきどきと触れると聞こえるあの音が小さな命母のおなかに

中二 郡司ひかり

週末に帰ってきた父我が家には戻る笑いとたばこの香り

中二 水谷 優里

夏休みじいちゃんちで見たあの夕日田舎の町を真っ赤に染めた

中二 宇都宮一仁

ひたすらに勝つためだけに戦ったテニスコートに残るあしあと

中二 小川 正道

ギユウギユウと入口密度高すぎて目的地まで地獄の車内

中二 後藤 千晴

少しづつ月は形を変えていく私の心も微妙に変わる

中二 田中 花梨

毎日の母が作ったお弁当冷めてるけれど優しさを感じる

中二 田畑 結子

少しでも速くなりたいそれだけで走っています夕焼けの空

中二 松本 詩音

長雨にジャージを濡らす帰り道微熱の僕の心を冷やす

中二 三枝 史演

永遠と回り続ける時計にも戻りた過去あるのかなあと

中二 稲垣 里南

花水木

個人会員 松井 久雄

★山茶花の紅き花卉の幾千と咲きこぼれしも終わりならんか

★桑名市の樹ときまりたる花水木苗木植えたり永久に育てよ

★この冬も葉を落としたる落葉松を庭に眺めて年を迎えん

★枝さきにふっくら蒼宿してる白木蓮が来る春をまつ

★ジャスミンの仲間の素馨躑躅のおう庭の樹と樹も争っている

〈順ちゃん〉

★うす紅の花は満開つづきいる河津桜のトンネルくぐる

★キノコ付き樹勢弱りし淡墨桜桜博士の解説よろし

★沖繩は一月に花見と博士言うあひめゆりの近くだろうか

★ワシントンの桜まつりの伝えくる日米友好使節の桜

★わが庭に二十糶の落葉松を植えしよりはや五十余年か

★落葉松の南限かとも人の言う巨木となりてわが庭の主

★一握りの落葉松求めし植木屋の順ちゃんに会う恋人のごと

★ひとり生え洪柿ならんいつしかに庭の住人なにかまうなく

〈ダブルレジ〉

★ポイントの二倍デーなり駐車場満車のわけはそこにあるのか

★レバー串・ほんじり串を二本ずつ元氣出せよと買い求めたり

★この店のナチュラル純水ことごととボトルに灌ぐ長生きの水

★県知事と市長と二人お揃いでスーパリーに來たり我も見に行く

★生知事も市長も共にハッピー着て売りあげほめる政治は言わず

★甘い物売り場の店主馴染にて親しきお顔す通りできぬ

★ダブルレジ其が売りよなどうせなら好みの女のレジにと並ぶ

★なつかしき「ローマの休日」DVD買物籠にこれも収めて

〈ひめゆり〉

★肩に手をかけ合うひめゆり六名のおだやかな日の姿うるわし

★学徒隊解散命令出たという負傷者壕に残したままに

★ひめゆりの校章白百合海岸で二〇〇八年見つかかりしとぞ

★証言員ひめゆり学徒語りつぐ平和への道祈りをこめて



桑名地名あれこれ(14)

播磨新田と大山田新田

社会文化部門
(個人会員)

大河内 浩

昨年末に妖怪漫画家として親しまれた水木しげる氏が亡くなられました。各地に色々な妖怪伝説が残りますが、この地方でも古い表現で物の怪に取り憑かれることをダリがつくという言葉があります。

現在でも播磨地内で大山田川が湾曲するあたりの北岸(播磨西自治会域)を字ダリと言い、さらにその西方、西方枝郷の坂之下を越えて上流の南岸あたりはソブ上と言います。ソブも当地方の方言で汚ない物、濁った物という意味で赤く濁った水が湧き出ていたようです。もともとの播磨の集落は字六畝割(現在の播磨東・播磨中)あたりで、それより西方は西方との入会い地の、濁った湧水で鬱蒼としたダリのつくような森だったでしょう。

養老鉄道播磨駅のあたりは北別所の地所が大きく湾入し、播磨はそれをはさんで東西に分れ、東側揖斐川に近い方を大山田新田、西側を播磨新田と分称したことが古記録に見えます。東側の方は現在明治期の河川改修で削岸となった上之輪新田の集落が移っています。

大山田という名は、そもそも播磨の南を流れる川の名であるとともに、播磨の村で揖斐川寄りの方を指しており、現在でも大字福島字大山田沢という地名も残っています。明治二十二年の町村分合で桑名村をはじめ播磨・西方を含む十二カ村が合併した時、区域内の水利に重要な関係をもつ大山田川より採名して桑名郡大山田村としました。播磨・西方の入会い地にある官林は大山田国有林と呼ばれ、その払い下げで、昭和五十五年に大山田ニュータウンが開発されて大山田の印象は西へと移りました。



平成3年大山田団地内に開設された藤が丘デザイン公園
花と緑の博覧会会場より譲受の「生命樹」モニュメント

平成二十七年 度

新入会員の紹介

(敬称略)
(3月1日現在までに入会の会員)

○ウイング

代表 城野 綱子

(芸能I・大正琴)

○SPASSO(スパッソ)

代表 宮田 英恵

(音楽・弦楽四重奏)

○端唄 華房流 華の会

代表 三村 薫

(芸能I・端唄)

第24回総会のご案内

日時 平成28年5月8日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

会場 桑名市大山田コミュニティ

プラザ 中会議室

*各部門から代議員の選出をして
いただきます。

編集後記

「桑名文協」第39号をお届け致します。お手もとに届く頃には寒さも緩み春の訪れを感じられていることでしょう。

本号では、今年度も盛大に開催された「桑名市民芸術文化祭」「新春六華苑祭」の様子を各部門より掲載して頂きました。文化活動を通じて桑名の発展に貢献していきたいと編集者一同願っています。

(伊藤 好子)

広報担当副会長

委員 文学部門 丹羽 宗俊

美術部門 上田 順子

音楽部門 安田 誠

芸能I部門 葛巻ゆかり

芸能II部門 村瀬 昌子

芸能III部門 藤田 周岳

演劇部門 伊藤 好子

社会文化部門 内山 亜美

茶華香道部門 大河内 浩

趣味教養部門 三浦 幸子
加藤 誠